

第3学年 国語科学習指導案

平成30年9月20日（木）第5校時

場 所 3年1組教室

- 1 単元名・教材名** 悩める後輩に贈る言葉 「論語」
「学びて時にこれを習ふー『論語』から」（「国語3」光村図書）

2 生徒の実態と本単元の意図

（1）本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）】	学習内容	単元・教材名 （実施時期）	学習活動と関連する他領域等の指導
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文語のきまりや訓読の仕方を知り、音読を通して漢文特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。 <p style="text-align: center;">【第1学年 ア-（ア）】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓読の仕方 ・ 故事成語 ・ 書き下し文 ・ 送り仮名 	私の故事成語ストーリーを発表しよう「矛盾」（1年11月）	<p style="text-align: center;">【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元「来年度の一年生にスキー教室に向けてのアドバイスを贈ろう」 ・ 文章の構成 ・ 相手を意識した書き方 <p style="text-align: center;">【読むこと】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。 <p style="text-align: center;">【第2学年 ア-（イ）】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢詩の形式 ・ 訓読の仕方 ・ 白文 ・ 漢詩の情景 	漢詩の世界に触れよう「漢詩の風景」（2年1月）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元「三つの観点から太宰の思いを考えよう」 ・ 作者の思いの捉え方 ・ 知識や体験と関連付け、自分の考えをまとめること

（2）生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、漢文についての基礎基本を身につけている生徒が多い一方で、十分に身につけていない生徒もいること、また、「自分の考えをわかりやすく書くこと」を苦手にする生徒が多く、どのように書くべきかがわからない生徒も多い。

そこで本単元では、まず漢文を読むためのきまりについての復習を行い、生徒が漢文の訓読に対して苦手意識をもたずに、「論語」の意味を理解できるよう学習を進めていく。また、教科書に掲載された言葉以外に20の言葉を取り上げるようにし、多くの言葉と出会わせる。多くの言葉を繰り返し音読させ、自分の考えをもたせることで、漢文独特のリズムや言い回しに慣れ親しみ、自分たちの生活にも通じる真理があることに気づかせたい。さらに後輩への取材を通して得た情報を根拠とし、その後輩に最適な「論語」の言葉を贈るという学習活動を通して、「自分の考えを明確に書く」力を高めることをねらいとする。

「論語」は古代中国の古典「四書」の一つで、孔子とその弟子たちの言行録である。ほとんどが短い言葉であるが、日本人のものの考え方に大きな影響を与えてきた書である。その孔子の言葉を教員が一方的に説明するのではなく、後輩の悩みを解決するために「贈る言葉」として最適な言葉を生徒自身が見つけるという学習にすることで、生徒一人一人が主体的に

「論語」の言葉と向き合うことができると思う。現代にも通じる昔の人のものの見方や考え方を十分に味わわせ、古典の世界に親しませたい。

3 単元の目標

- (1) 孔子の人間の生き方についての観察や思索に触れ、自分たちの生活と比べながら読み、古人の知恵に学ぼうとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 後輩への取材で得た情報を根拠とし、最適な論語の言葉を引用して論理の展開を工夫した説得力のある文章を書くことができる。 (書くこと)
- (3) 「論語」の言葉の意味や歴史的背景について理解し、音読や文章に引用することを通して、論語に親しむことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての 知識・理解・技能
単元 の 評 価 規 準	・孔子の人間の生き方についての観察や思索に触れ、自分たちの生活と比べながら読み、古人の知恵に学ぼうとしている。	・後輩への取材で得た情報を根拠とし、最適な論語の言葉を引用して論理の展開を工夫した説得力のある文章を書いている。	・「論語」の言葉の意味や歴史的背景について理解し、音読や文章に引用することを通して、論語に親しんでいる。
学習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	①リズムに注意し、「論語」を（進んで）音読しようとしている。 ②「論語」の言葉の意味と現在の生活を重ね、どのような場面でその言葉が生きるかを（意欲的に）考えようとしている。 ③最適な「論語」の言葉を選ぶ根拠を得るため、後輩に（積極的に）取材をしようとしている。 ④交流活動に（主体的に）参加し、自分の考えを深めようとしている。	①後輩への取材で得た情報から、その後輩に最適な「論語」の言葉を選んでいる。 ②「論語」の言葉を引用し、構成や展開に注意しながら、説得力のある文章を書いている。	①漢文の基本的なきまりを理解し、「論語」を（正しく）音読している。 ②「論語」の言葉の意味や歴史的背景について（正確に）理解している。

5 指導と評価の計画（全6時間）

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○学習の概要を知り、学習計画を確認する。	・学習課題の設定 ・漢文のきまりや訓読の仕方	オの① ・机間指導による観察

	○漢文のきまりや訓読の仕方について復習をする。	・返り点、送り仮名、置き字、書き下し文	・発表、態度の確認 ・ノートの内容考察
2	○「論語」と孔子について理解する。 ○漢文のきまりに注意しながら、教科書に記載された「論語」の言葉について学ぶ。	・「論語」や孔子について ・漢文のリズムを生かした音読の仕方 ・「論語」の訓読 ・「論語」の教えの意味	アの① オの①② ・机間指導による観察 ・発表、態度の確認 ・ノートの内容考察
3	○「論語リスト」に記載された言葉を音読し、自分の考えを書く。	・「論語」の教えの意味 ・「論語」と日常生活を比較しての自分の考えの書き方	アの①② オの② ・机間指導による観察 ・感想用紙の内容考察
4	○「論語」の言葉を後輩に贈るため、後輩に取材をし、言葉を選択する際の根拠を集める。	・取材する項目 ・取材の仕方	アの③ ・取材の取組の様子
5 (本時)	○前時の取材からわかったことを根拠とし、「論語」を引用した文章を書く。 ○書いた文章をグループ内で評価し合う。	・「論語」の教えの意味 ・後輩に贈る文章の書き方 ・文章の構成 ・文章の評価の観点	アの②④ ウの①② ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容考察 ・相互評価の取組の様子
6	○前時の評価を踏まえて、文章を推敲し、清書をする。	・文章の推敲の仕方 ・文章の構成	アの② ウの② ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容考察

6 本時の学習指導（5／6時間）

（1）目標

- ・後輩に贈る言葉として最適な論語を選び、自分の考えをまとめようとするとともに、友達からの意見を踏まえて自分の考えを深めようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・後輩に取材して得た情報を根拠にして、その後輩に最適な「論語」の言葉を選んで文章にまとめることができる。（書くこと）

（2）展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 と 評 価 の 創 意 工 夫
1. 本時の学習課題を確認する。	・本時の学習課題の確認	・本時の課題を明確に示し、意欲を高める。
取材で得た情報を根拠にして、後輩に最適な「論語」の言葉を贈ろう。		
2. 学習課題の取り組み方について見通しをもつ。	○学習の進め方 ○文章の書き方	・学習の手引きプリントを配布し、学習の進め方を明確にさせる。

<p>3. 「論語リスト」の中から言葉を一つ選び、後輩に贈る文章を書く。</p>	<p>○論語の教えの意味 ○文章の構成 ○文章の評価の観点</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">評価場面①</div> <p><学習活動に即した評価規準> アの② ウの①②</p> <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・ワークシートの内容考察 <p><手立て></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">規準に達していない生徒</div> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな言葉を後輩に贈ろうとしているのかを確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">規準に達している生徒</div> <ul style="list-style-type: none"> ・他に贈ることができそうな言葉がないか考えさせ、最適な言葉についてもう一度考えさせる。 <p>・評価をする観点を明確にしてから、相互評価を行わせる。</p>
<p>4. 文章をグループ内で評価し合う。</p>	<p>○グループ内での評価の仕方</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">評価場面②</div> <p><学習活動に即した評価規準> アの④</p> <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互評価の取組の様子 ・付箋紙の内容考察 <p><手立て></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">規準に達していない生徒</div> <ul style="list-style-type: none"> ・文章をまとめる際に困ったことなどを伝え、班員からアドバイスをもらうよう促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">規準に達している生徒</div> <ul style="list-style-type: none"> ・書き手が選んだ言葉について、他に適した言葉がないかを探すように指示する。 <p>・本時の活動の成果を称賛し、次回の活動への意欲付けをする。</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>相互評価の方法と観点</p> <p><方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会者を立て、司会者の進行のもと、四人グループで評価し合う。文章を回し読みし、よいところを青色の付箋に、アドバイスを赤色の付箋に書いて評価し合う。 <p><評価の観点></p> <p>①文章に引用した論語の言葉が、後輩の悩みを解決するものとして最適なものであるか。</p> <p>②その言葉を選んだ理由が、わかりやすく書かれているか。</p> </div>		
<p>5. 本時の自己評価をするとともに、次回の学習内容を理解する。</p>	<p>○自己評価 ○次回の学習内容の見通し</p>	

7 生徒数

男子18名 女子19名 計37名

8 板書計画

単元名

悩める後輩に贈る言葉 「論語」

今日の学習目標

取材で得た情報を根拠にして、後輩に最適な「論語」の言葉を贈ろう。

後輩に贈る文章の書き方

(揭示)

相互評価の仕方について

(揭示)